

茨城大学での共同研究を終えて

物理学専攻 博士2年 東川翔

2018年1月22日から2月2日までの2週間、茨城県水戸市にある茨城大学に滞在し、理学部物理学領域の佐藤正寛准教授と非平衡物性の共同理論研究を行った。佐藤先生は非平衡系の中でも周期的な外力のかかった系を専門としており、レーザー外場中の磁性体の研究などで多くの成果をあげている。今回の滞在では、周期的な外力と緩和の共存した系において、長時間後に実現される定常状態(非平衡定常状態)についての研究を行った。滞在中の数値計算の結果からこの系では従来とは異なる定常状態が実現されていることを示唆する結果を得た。

滞在中の研究は、私がこれまで行ってきた研究とは大きく異なる分野のものだったが、佐藤先生の丁寧な指導のおかげで研究が順調に進み、滞在中も共同研究を続けることになった。共同研究以外でも、物理学領域でのセミナーの機会をいただいたり、物性理論グループメンバーと交流したりすることができ、有意義な滞在だった。最後に、このような貴重な機会を与えてくださったALPSコース、そしてお忙しい中、共同研究の申し出を快諾してくださった佐藤先生に心より感謝したい。



茨城大学水戸キャンパス。滞在中に大雪が降った。